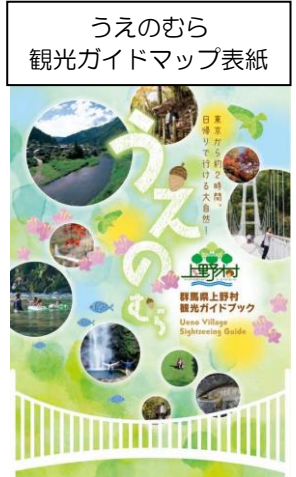




■上野村の2つの発電所 —地産地消のバイオマス vs 東電の揚水式—

去る4月23日(日)・24日(月)、当NPOでは上野村スタディツアーを実施、21名が参加した。

群馬県上野村人口1,261人の山間部の小さな村に、ここ2年間毎年千人位の人が視察に訪れているという。人口の250人がIターン。Iターン(アイターン)とは都心部で生まれ育った人が地方の企業に転職し移住すること。「どこにも負けない“のんびり”がここにありますが」をスローガンに村ぐるみでIターンを応援した結果だ。その影に、村のエネルギーの地産地消の取組がある。



間伐材(不良材)を砕く工程

■地域の資源を生かし、村を潤す仕組み

かつて群馬のチベットと言われた村の95%が森林だ。森林があっても切り出せなかったため、人工林が少なく、広葉樹林が6割。小さな村でも一年間で4.6億円がエネルギーにかかる費用として村外に支払われている。この費用を一部でも村の中にもってくれば、村は潤い、職場も作れるはずだ。上野村型エコビレッジに向けて、トップの決断は早かった。

最初の取組は村の木だけを利用して作るペレットの工場だ。生産される年間1600トンのペレットはすべて村内で消費している。現代の里山として森を守り、25年に1度の伐採で森林を使い回す計画だ。人工林とは違い、広葉樹は伐採しても、自然と株から新芽が芽生える。

ペレットからエネルギーを作ろうと「全国ありとあらゆる施設を見たが、我々に必要なものは日本にはなかった」。

そこで2015年、ドイツ・ブルクハルト社の「木質ペレットガス化熱電併給装置」

を日本で初導入(世界では118号機目)した。木質ペレットガス化装置と、発電と熱を供給する装置の二つに大きく分かれている。すべて自動制御で、ドイツでもリアルタイムで監視ができる。電気は180kW、熱はガス化装置で90℃、熱電併給装置で200kWと「おもちゃみたいかもしれないが、村の木でやれる範囲で管理している」という。



木質ペレットのガス化装置(ドイツ製)

電気は隣接のきのこセンター(60人雇用)で使用している。基準値以下だが、村のおが屑にセシウムが検出されたので、現在、おが屑は村内産でなく、他のところから購入している。

小規模ではあるが、村の資源でエネルギーと雇用を生み出す仕組みを生み出した。



■世界最大級も目指す、^{ようすい}揚水発電所・^{かながわ}神流川発電所の実態

一方、上野村には世界最大級を目指す揚水式発電所・神流川発電所がある。上部ダムとして長野県の南相木ダムと下部ダムとして上野村上野ダムを建設し、この間の落差 653m を利用、電気が余っている時に水をくみ上げ、ピーク時など必要な時に水を落下させて発電する。上野村「御巢鷹山」の地下 500m 空間に、超高層ビルがすっぽり横に入る位の長さ 216m、横 52m、高さ 30m の巨大な空間が掘られ、発電電動機とポンプ水車を兼ねた装置が納められている。2005 年に 1 号機（出力 47 万 kW）、福島原発事故の翌年 12 年に 2 号機（出力 47 万 kW、合計出力 94 万 kW）の運転を開始している。今後 3 号機から 6 号機が完成すると、世界最大級の揚水式発電所になる予定（米国 Bath Country 発電所 3 百万 kW が世界最大。世界には百万 kW 以上の揚水発電所が 50 ヶ所以上ある）だが、2028 年まで現状のまま。現在、この無人運転の発電稼働率は平均 50% 位、夏場は 60%、低いときは 20% という。

揚水発電所はもともと原子力発電所と対になって、原発の夜間余剰電気を利用するために日本国内 42 ヶ所に建設されたが、現在、原発がほとんど止まっているので、稼働率は極めて低い。昨年 5 月 4 日九州電力管内で再エネが 66% に達した時には、逆に昼間水をくみ上げ、18 時から電力需要の多くなる夜に発電をした。

上野村の小さなエネルギーの地域地産の取組は数十年単位で村の将来を見据えている。一方、総括原価方式で我々の電気料から建設された巨大な揚水発電所には未来のビジョンが少しも感じられなかった。その違いは未来の日本のエネルギー政策を見極める参考になるだろう。

理事 ^{きよし}高橋 喜宣

感想文 ～上野村スタディーツアーに参加して～

今回、原発ゼロ市民共同かわさき発電所のスタディーツアーに参加させていただきました。

原発問題やエネルギー問題に関する知識が浅く、参加するにあたり緊張もありましたが、参加メンバーの方々に温かく迎え入れていただき、「大人の修学旅行」のようで大満足でした。

上野村産業情報センターの三枝（みえだ）さんのペレット・バイオマス発電所などの話はとても分かりやすかったです。上野村の I ターン、職を作り出す行政、バイオマス発電所のドイツでの遠隔操作、お米を作れない土地の活用と自然との共存どれも驚きばかりでした。

上野村は自然が多く、上野村への I ターンにとっても興味を持ちました。宿泊した「すりばち荘」

で食べた料理はどれも美味しく、すりばち荘秘伝の唐辛子入り味噌は帰りに購入しました。

「富岡製糸場」と「上野スカイブリッジ」の観光も楽しかったです。とても充実した 2 日間でした。お世話いただいた方々、本当にありがとうございました。



宿泊した「すりばち荘」の前で、参加者全員で記念撮影

初参加いただいた 須川さん、植木さん、長谷川さん の共同執筆



■「日本と再生」を見て

先日、映画「日本と再生」を見る機会を得ました。「日本と原発」、「日本と原発・4年後」の続編です。

私はこの映画を見て、とても希望がわきました。世界では再生可能エネルギーがどんどん増え、電気料金は安くなり、雇用が増え、地域が活性化しています。後進国でも同じような状況が生まれています。世界に再生可能エネルギーが広まっていく中で、日本だけが原発にしがみついていくなれば、経済的にも立ち遅れていけよう。日本国民は早くそのことに気がつかなければいけないということが、よくわかりました。

そのときに、この映画を監督した河合弘之弁護士のお話も聞くことができました。彼は脱原発訴訟で活躍している方ですね。原発のある県は原発のおかげで経済が潤っているのでなかなか反対できないが、原発立地の周りの県が「原発差し止め訴訟」で勝っていくことが大切だと話しておられました。

原発がない日本にしようという元気がもらえる映画です。

当NPO法人も、「日本と再生」の上映会を開催することになりました。ぜひ皆さん見てください。

理事 玉田 恵美子



原発ゼロ 市民共同かわさき発電所
3号機 うしおだ診療所
建設決定記念上映会

「日本と原発」河合弘之監督の最新作

日本と再生

光と風のギガワット作戦

監督 河合弘之 (弁護士)
企画・監修 飯田哲也 (環境学者)
音楽 新垣 隆
エンディングテーマ 坂本龍一

14:30 第1回上映会 (開場14:00)
17:00 河合監督講演 (受付16:40)
18:30 第2回上映会 (受付18:15)

7月11日(火)

産業振興会館(川崎駅徒歩8分)ホール
前売券500円 当日券700円

主催:NPO法人原発ゼロ市民共同かわさき発電所
URL: <http://genpatuzero-hatuden.jimdo.com/>
電話:044-211-0121(川崎合同法律事務所:川岸)
共催:公益財団法人・横浜勤労者福祉協会



会員みなさまへ ■第3回総会のご案内■

会員みなさまのご支援・ご協力により、NPO法人原発ゼロ市民共同かわさき発電所の活動が、4年目を迎えることが出来ました。この一年、「原発ゼロ」「再エネ普及」を掲げ、精力的に活動を行ってきました。

事業面では、横浜勤労者福祉協会の協力を得て、うしおだ診療所屋上に、3号機の設置が決まりました。また、1号機・2号機については、発電電力の売電先を、東京電力から生活クラブエナジーへ切り替えることができました。

イベント面では、スタディーツアーで福島現地を訪れ、原点である福島原発事故の被害に触れ、活動の意義をあらためて再確認することができました。他方、2号機で発電した電気を使ったフェス「おひさまフェス×星空上映会 in かわさき2016」は、雨天に見舞われましたが、これを乗り越え、第3回開催に向けて動き出しています。

政策面では、当法人が研究を進めてきた再生可能エネルギー市民条例案が、川崎地域エネルギー市民協議会で承認され、実現に向けて活動展開する準備は整いました。また、川崎に最も近い浜岡原子力発電所の危険性と川崎に対する影響の研究も進め、新しい切り口での脱原発運動の展開も試行しています。

原発推進勢力に対し、川崎における歯止めの砦となり続けるべく、原発ゼロ市民共同かわさき発電所は歩みを止めるわけにはいきません。ぜひ多くの会員みなさまのご協力、ご支援を得て、次なる活動への原動力とする総会にしたいと考えています。

第3回総会への会員の皆さまのご参加、心よりお待ちしております。

理事長 川岸 卓哉

【第3回総会】

日時 6月25日(日) 13:30~15:00

場所 大山街道ふるさと館 3F 第2会議室

【編集後記】

この季節の「上野村」は満開の桜と山つつじが咲き誇り、木々の新芽は黄緑色に輝き、素晴らしい景色でした。1日目の夕方、すりばち荘に観光担当の三枝(みえだ)さんが来てくださり、上野村についてお勉強。“挑戦と自立”を掲げる村のエネルギー政策には感心するばかりでした。夕食時にエピソードなども聞け、暮らし方が充実している村だなあという印象と、大都市とは異なるコミュニティに憧れを抱きました。

おいしい猪豚鍋と温泉、木工芸品や特産物のお土産も買って、自然の恵みを堪能しました。また訪れたいです。ありがとうございました。(加藤伸子)

でん太通信は毎月15日に発行しています。



■NPO 法人 原発ゼロ市民共同かわさき発電所■

ホームページ

<http://genpatuzero-hatuden.jimdo.com/>

フェイスブック

<https://www.facebook.com/genpatuzero.hatuden>

連絡先 TEL 090-7948-6189 (川岸)

